

—食と緑が支える豊かな「あま」をめざして—

食と緑の海部地域レポート'16

(2015年版)



平成28年7月

海部農林水産事務所



【表紙の写真】

(左上) レンコン田の風景 (愛西市)

(左下) 鍋田海岸 (弥富市)

(右上) 6次産業化の商品：ローズシロップ (弥富市)

(右下) 根高排水機場 (愛西市)

目 次

I	食と緑の海部地域レポート作成の趣旨	1
II	食と緑に関する重点的取組体系図	2
III	海部地域における重点的な取組の実施状況	3
1	安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保	3
(1)	生産者と消費者の思いを伝える農林水産業の推進	3
(2)	多様な担い手の育成・確保	4
(3)	農業生産基盤の整備と優良農地の保全	4
(4)	食品の安全・安心の確保	5
2	県産農林水産物の適切な消費と利用の促進	6
(1)	食と農林水産業に対する県民の理解と活動の促進	6
(2)	県産農林水産物の消費と利用の促進	6
3	自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保	7
(1)	農地が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮	7
(2)	災害に強く安全で快適な生活環境の確保	7
(3)	環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化	7
IV	地域の特徴的な取組事例	
1	トマト黄化葉巻病耐病性品種の栽培技術確立	8
2	新規担い手が不耕起V溝直播栽培を導入	9
3	排水機場の更新（たん水防除事業）	10
4	鍋田海岸の耐震対策（海岸整備事業）	11
V	農のある暮らしの実践例	12
1	海部地域いいともあいち即売会を開催	12
2	4Hクラブが「海南こどもの国秋まつり」に初参加 農業をPR	13
3	海拔ゼロメートル地帯の安全を守る排水機場のPR活動	14
VI	施策体系ごとの目標達成状況	15
VII	食と緑の基本計画2015海部地域推進プランの概要	17

Ⅰ 食と緑の海部地域レポート作成の趣旨

愛知県においては、平成16年4月に、県民の皆様が消費者、生産者という立場を超えて、同じ県土で暮らす“生活者”として身近な農林水産業を見つめ直し、積極的に関わっていく必要があるという考えのもと、「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を施行しました。

そして、県が実施する施策の基本方針である「食と緑の基本計画」を平成17年2月に策定し、その取組成果を踏まえた新たな計画として、平成23年5月に「食と緑の基本計画2015」を策定しました。

海部地域では、「食と緑の基本計画2015」に即し、地域の特徴や実情を踏まえた実践計画として、平成23年6月に「食と緑の基本計画2015海部地域推進プラン」を策定しました。このプランは、地域が重点的に取り組んでいく施策や2015年度までの目標数値とその目標を達成するための取り組みを明らかにしたものです。

食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくりを実現するためには、県民一人ひとりが農林水産業の恩恵を等しく受けている“生活者”であることを自覚し、食と緑に関する取り組みをそれぞれの立場から進めていくことが必要です。

この「食と緑の海部地域レポート」は、海部地域推進プランの推進を図るため、2015年度に実施した地域の重点的な取組み事例などを中心に取りまとめました。

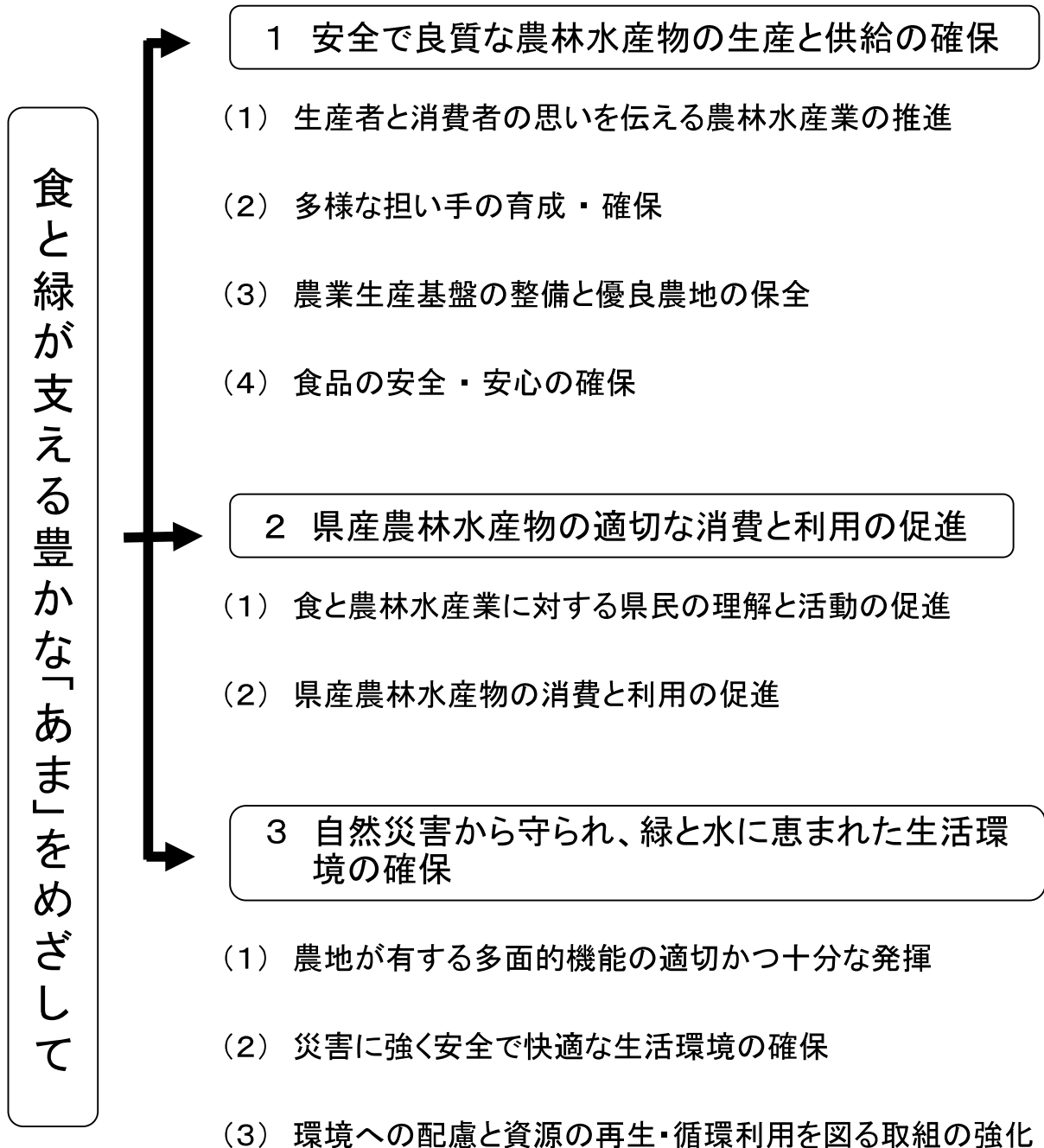
生活者とは

すべての県民は、生産者、消費者という立場を超えて、農林水産業やその営みの場である森林、農地、海及び川が生活環境に及ぼす多面的機能の恩恵を等しく受けて生活している「生活者」です。

私たちは、この「生活者」の視点に立って、農林水産業や多面的機能に関するさまざまな課題を自らのものとして捉える必要があります。



II 食と緑に関する重点的取組体系図



III 海部地域における重点的な取組の実施状況

1 安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保

(1) 生産者と消費者の思いを伝える農林水産業の推進

政 普

● 農林水産業と他産業の出会いの場を創出するため、農林水産物の地産地消に積極的な企業等を発掘し、「いいともあいち運動」(*1)のネットワーク会員数を拡大しました。

6次産業化(*2)の取り組みを支援するため、

● バラ生産者の加工品開発や販路拡大の取り組みを支援しました。

● 地域で生産される農産物等の魅力を消費者に伝えるため、県主催の「あいちの農林水産フェア」にJAあいち海部や生産者が出展し、地域の農産物等を消費者に紹介しました。



(ローズシロップ)



(あいちの農林水産フェア)

※ 施策の項目の横に記した以下の記号は、各項目の取組を主体的に推進する担当課を表しています。

政 農政課

普 農業改良普及課

建 建設課

排 排水対策課

(2) 多様な担い手の育成・確保

普

農業を担う基幹経営体を育成するため、

- トマトの黄化葉巻病耐病性品種の栽培技術を確立しました。
- 水稲では、「あきだわら」等多収性品種の現地適応性の検討を行いました。また、新規担い手の水稲V溝直播栽培の導入を支援しました。
- 花きでは、香港への鉢花輸出の販路を確立しました。また、ハス葉の省力安定出荷へ新たな方法を試行しました。
- 市町村と連携し、認定農業者(*3)の認定更新時に経営改善計画を策定するとともに、制度資金借受者に対しては、資金計画の策定支援を行いました。
- 農業経営における経営方針・役割分担を明確化するため、家族経営協定の締結を支援しました。

新規農業就業者を確保するため、

- 花き若手生産者組織に対し、トレードフェア出展等に対する活動支援を行いました。
- 農起業支援センターで新規就農相談を行い、計画的な就農へと誘導しました。
- 「レンコン道場」に入門した研修生に対し、青年就農給付金の活用と就農に向けての支援を行いました。



香港で輸出鉢花のプレゼンテーション



新規就農者の経営改善資金計画の検討

(3) 農業生産基盤の整備と優良農地の保全

政 建 排

農地の生産性の維持や自然災害に強い農地を確保するため、

- 特定農業用管水路特別対策事業(本部田南地区)により農業用水管の更新を行いました。
- たん水防除事業(善太新地区、新堀川1期地区)により排水機場の整備を行いました。
- 耕作放棄地の発生防止の取組として、パトロールを実施しました。



本部田南地区(農業用水管の更新状況)



(農地パトロール)

(4) 食品の安全・安心の確保

政 普

- 農産物の安全性を確保するため、既にGAP手法(*4)を導入しているイチゴ、トマト、レンコンの組合への定着促進として、シートチェックを実施し、高度化への啓発を図りました。

特定家畜伝染病の発生に備えるため、

- 海部地域鳥インフルエンザ防疫対策マニュアルにもとづき、関係機関と連携して防疫演習を実施しました。
- 地域の畜産農家への立入調査を実施しました。
- 食品の安全・安心を確保するため、地域の食品販売店等に対して、食品表示法に基づく食品表示遵守調査を実施しました。



(防虫ネットを設置したトマトハウス)



(防疫演習の様子)

用語の解説

*1 【いいともあいち運動】

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民に”愛知県農林水産業の応援団”になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという運動。

*2 【6次産業化】

農林水産物等や農山漁村に存在する土地、水などの資源を有効に活用して、農林漁業(一次産業)と、製造業(二次産業)、小売業等(三次産業)との融合を図り、農山漁村を活性化させる取組のこと。

*3 【認定農業者】

効率的で安定的な優れた経営を目指した意欲と能力のあるプロの農業者で、地域農業のリーダー。

*4 【GAP手法】

生産者自らが、農業生産工程の全体を見通して、食品安全をはじめ様々な観点から注意すべき管理点(点検項目)を定め、これに沿って農作業を実施・記録し、検証を行って農作業の改善に結びつけていく、一連の農業生産工程管理手法のこと。

*5 【花育】

花や緑に親しみ育てる機会を通じて、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むこと。

*6 【生物多様性】

あらゆる生物の種の多さと、それらによって成り立っている生態系の豊かさやバランスが保たれている状態をいい、さらに、生物が過去から未来へと伝える遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念。

2 県産農林水産物の適切な消費と利用の促進

(1) 食と農林水産業に対する県民の理解と活動の促進

政 普

食や農林水産業に対する正しい知識を子供の頃から育てるため、

- 児童を対象とする農業体験等の地域農業指導者を確保し、小学校などに派遣しました。
- 海部地域食育推進支援会議を開催し、教育関係者や農業関係者などと情報の共有化を行い、農業体験学習の拡大を検討しました。
- 花や緑が身近にある生活の実現をめざすため、海南こどもの国で花育(*5)教室や寄せ植え教室を年2回開催し、約400名の参加を得ました。また、蟹江町立新蟹江小学校始め3校で花育を実施し、約200名の児童が種まきや寄せ植え、フラワーアレンジメントに取り組みました。



(海南こどもの国での花育教室)



(小学校での花育教室)

(2) 県産農林水産物の消費と利用の促進

政 普

学校給食の地産地消を促進するため、

- 海部地域食育推進支援会議を開催し、教育関係者や農業関係者などと情報の共有化を行い、学校給食における地産地消の拡大を検討しました。
- 地域の食育推進ボランティアが行う各種取り組みを支援しました。
- 地域でのさらなる地産地消を推進するため、いいともあいちネットワーク会員の協力を得て、いいともあいち即売会を開催しました。



(海部地域いいともあいち即売会)



(食育推進ボランティアの活動)

3 自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保

(1) 農地が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮

建

- 農地がもつ生物多様性(*6)の保全をはじめとした多面的機能の重要性に対する地域住民の理解を深めるため、地域の住民や子供達を参加対象とした「生き物調査」を実施しました。



生き物調査(あま市)



魚釣り大会(弥富市)

(2) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保

建 排

- 農地や周辺集落を洪水などの自然災害から守るため、たん水防除事業(善太新地区、新堀川1期地区)により排水機場の整備を行いました。



善太新地区(善太新排水機場)



新堀川1期地区(根高排水機場ポンプ)

(3) 環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化

政

- 地球規模の環境問題である地球温暖化の防止に貢献するため、海部苗木花卉生産組合連合会役員会等において、温室効果ガス削減の取り組みを啓発するとともに、管内JAに対し、施設園芸省エネ設備リース導入支援事業への参加を促しました。



(省エネ施設を導入した園芸ハウス)

IV 地域の特徴的な取組事例

1 トマト黄化葉巻病耐病性品種の栽培技術確立

【取組の趣旨・目的】

トマト栽培では、コナジラミ類が媒介するウィルスに起因した黄化葉巻病の発生軽減が課題になっています。近年では、本病に耐病性を示す品種が開発されつつあり、あまトマト部会でも試作されています。しかし、これまでと同様の栽培管理では草勢や品質の面で問題がみられました。そこで、同部会を対象に耐病性品種の栽培技術確立を支援しました。

【取組内容】

耐病性品種選定を行うよう役員等に働きかけました。前年度耐病性品種栽培者、今年度栽培希望者等を対象に品種検討会が開催されました。検討会では品種特性の調査結果を示して検討を促しました。有望な1品種が選定されました。

今年度の抑制作型作付前に、選定した品種の栽培勉強会を企画しました。また、耐病性品種の栽培管理状況を個別巡回し確認しました。その結果、基肥の減肥、葉かきは強め、最低夜温を高めるなど栽培方法の改善に取り組みました。初期の草勢安定や着色改善が実感されました。

【今後の方針】

各作型での耐病性品種の利用について検討していきます。



強めの葉かきで着色改善

2 新規担い手が不耕起V溝直播栽培を導入

【取組の趣旨・目的】

津島市宇治町では、集落在住の担い手が引退し、市外から新規参入し担い手が確保されました。26年産米価の下落もあり、いっそうの低コスト生産が求められています。そこで、育苗にかかる労力や経費の削減を図るため、不耕起V溝直播栽培（以下、V直栽培）を試験的に導入し、慣行の移植栽培と同等の収量が確保できるよう技術習得を支援しました。

【取組内容】

V直栽培用の整地機械及び播種機の実演機を手配し、播種及び除草剤散布の時期及び方法について、担い手農家に説明しました。適切な整地及び播種、適期除草剤散布について、ほ場の様子や水稻の生育状況を農家と共に確認しながら、現地指導しました。特に、除草剤散布のタイミングについて重点的に、中干しが不要な点など水管理について指導しました。

除草剤散布を始め適期に適切な管理ができたことで、出芽は良好、慣行移植栽培以上の収量を得ることができました。

【今後の方針】

いっそうの労力軽減と低コストを図るため面積を拡大する計画となり、引き続き技術支援して行きます。



出芽直後のほ場

3 排水機場の更新（たん水防除事業）

【取組の趣旨・目的】

海部地域はゼロメートル地帯であり、地域の排水はすべて機械排水に頼っています。農業農村整備事業関係で設置した排水機場は、大小あわせて約130か所ありますが、排水機の老朽化と地域開発による流出量の増加により、地域では湛水被害の発生が危惧されています。

たん水防除事業では、こうした湛水被害を未然に防止することを目的として、排水機場などの更新・整備を行っています。

【取組内容】

たん水防除事業善太新地区は、昭和54年に造られた善太新排水機場の改修を行うため平成21年度に採択され、モーター駆動の口径1800ミリの排水機3台をガスタービンエンジン駆動に更新整備を行うとともに、排水機場の耐震化工事も行い、平成27年度に完了しました。

これにより排水能力は従前の約1.6倍になり、地域の湛水被害の防止に大きな役割を果たしています。

【今後の方針】

今後も、地域の安全・安心のため、排水機場などの計画的な更新・整備に努めていきます。



(善太新排水機場)



(ガスタービンエンジン)

4 鍋田海岸の耐震対策（海岸整備事業）

【取組の趣旨・目的】

鍋田海岸は国営鍋田干拓事業により昭和39年に完成したもので、背後地には広大なゼロメートル地帯が広がり、優良な農地のほか、多くの住民や産業並びに、鉄道や国道等の重要な流通経路も集積しています。この地域では、万一、巨大地震が発生し堤防が決壊すれば、津波が内陸部へ遡上しますし、一旦、内陸部に浸水を許せば、自然排水ができないため広大な面積が長時間浸水し、被害が拡大することが懸念されています。

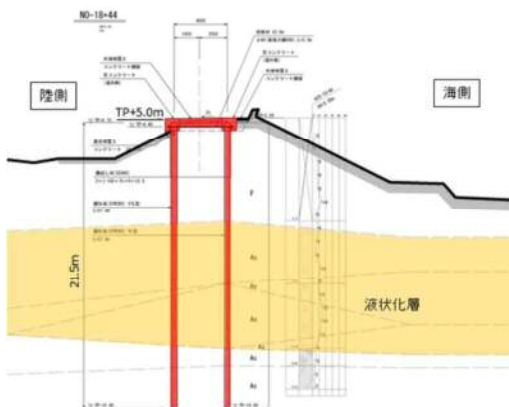
海岸整備事業では、地震発生後の海岸堤防の沈下や崩壊に伴う浸水被害を防ぐため、海岸堤防等の改修、補強工事を行っています。

【取組内容】

海岸整備事業鍋田地区は、阪神・淡路大震災後の平成8年度から地震時の液状化による堤防の崩壊を未然に防止するために、耐震補強工事として液状化対策工事（二重締切式鋼矢板工法等）を実施しています。

【今後の方針】

今後も、地域の安全・安心のため、海岸堤防等の改修、補強工事を計画的に進めていきます。



(二重締切式鋼矢板工法 標準断面図)



(鋼矢板打ち込み状況)

V 農のある暮らしの実践例

1 海部地域いいともあいち即売会を開催

【取組の趣旨・目的】

愛知県での地産地消の取り組み「いいともあいち運動」の一環として、海部地域の農産物の利用促進を図るため、JAあいち海部グリーンセンターにて地元産の食材を使用した加工品を販売しました。

【取組内容】

いいともあいちネットワーク会員に出店を依頼し、愛西市のレンコンを使用した洋菓子や「あいちのかおり」を使用した米粉パンなどを販売しました。
また、いいともあいち関連のパンフレットを配布し、いいともあいち運動の啓発を行いました。

【成果】

お客様から使用した農産物についての質問も多くあり、地元産の食材を使った商品を販売することにより、地元農産物への関心を高めることができました。

【今後の展開方向】

今後も、いいともあいち運動を通じて、地域の方々に地元農産物のPR活動を行っていきます。



販売の様子

2 4 Hクラブが「海南こどもの国秋まつり」に初参加 農業をPR

【取組の趣旨・目的】

海部4Hクラブ連絡協議会（13名）では、農業PRを目的に、地域の行事へ参加するなど、農業に対する関心を高める活動をおこなっています。

【取組内容】

11月3日（火）に弥富市で開催された「海南こどもの国秋まつり」に、初めて参加し、単位クラブで生産した農産物や自家の農産物を来場者に直接販売し、地域の農産物をPRしました。

同協議会役員は、行事の主催者側と出店条件などを調整して出店を計画しました。9名のクラブ員が参加し「ベジパラ農産物販売」と称して、地域特産物のレンコン、ショウガなど延べ13品目の即売を行うことができました。

【効果】

当日は小さな子供を連れた来場者が多く、「ショウガのつかみ取り」や「サツマイモの袋詰め放題」が盛況でした。

【今後の展開方向】

「アトラクション的な販売方法が良かった」、「次年度についても出店する方向で検討したい」などの意見が出されました。



海部4Hの販売ブース



販売風景（ショウガのつかみ取り）

3 海拔ゼロメートル地帯の安全を守る排水機場のPR活動

【取組の趣旨・目的】

海部地域は、ほぼ全域が海拔ゼロメートル地帯で、地域の排水は全て機械排水に依存しています。

本地域では、約130か所に設置された農業用排水機場が、農地だけでなく地域全体の排水を担う大変重要な役割を果たしています。

こうした排水機場の役割と重要性を理解してもらうため、近隣の小学生を対象とした現地学習会を開催しています。

【取組内容】

平成27年10月から平成28年1月にかけて海部農林水産事務所管内の小学生を対象に、現地学習会を9回開催しました。

パネルや模型を用いて海部地域の特色や排水機場の役割を説明し、実際にポンプを動かして排水の状況を見てもらい、終了後には、この地域の排水機場を絵柄にした「排水機場トランプ」を配布しました。参加した児童からは「排水機場の役割について良く分かった」との感想を多くいただきました。

【今後の方針】

今後も、地域の特色や排水機場の重要性を理解していただけるよう、地域の小学生を対象に、現地学習会などのPR活動を行います。



鷹居排水機場（あま市）



排水機場トランプ

現地学習会の様子

VI 施策体系ごとの目標達成状況

1. 安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保

施策項目	目標No.	施策目標	目標値	実績の推移					評価
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
				(2011)	(2012)	(2013)	(2014)	(2015)	
(1)生産者と消費者の思いを伝える農林水産物の推進	1	「生産者と消費者の思いを伝える農林水産物」のモデル事例の育成	5年間で5モデル(+α)を育成	2	4	5	5	5	A
	2	基幹経営体の育成	158経営体→170経営体	161	162	142	165	174	A
(2)多様な担い手の育成・確保	3	新規農業就業者の確保	10人/年	11	21	40	56	62	A
	4	生産性維持のための農業水利施設の更新	1,090ha	258	960	960	1,033	1,090	A
(3)農業生産基盤の整備と優良農地の保全	5	自然災害に強い農地の整備	2,680ha	456	789	1,725	1,922	2,680	A
	6	農産物環境安全推進マニュアルを始めとしたGAP手法導入組織・法人数	7→12	9	11	11	12	12	A
(4)食品の安全・安心の確保	7	畜産農家(牛・豚・鶏)の飼養衛生管理状況の立入検査計画に対する実施率	100%の達成	100	100	100	100	100	A
	8	食品表示法遵守状況調査の実施	60か所/年	60	120	180	243	306	A

2. 県産農林水産物の適切な消費と利用の促進

(1)食と農林水産物に対する県民の理解と活動の促進	9	農林漁業体験に取り組む小学校の割合	53.1%→76.5%	46.9	55.1	58.0	61.2	58.0	C
	10	花と緑の取組組織の育成	5組織→7組織	6	6	8	7	7	A
(2)県産農林水産物の消費と利用の促進	11	学校給食において地域の産物を活用する割合	32.0%	39.2	38.4	37.0	40.8	41.5	A
	12	農商工連携等、多様な取組による県産農林水産物を使った新商品開発数	2品目	1	1	2	2	2	A

3. 災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保

施策項目	目標No.	施策目標	目標値	実績の推移					評価
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
				(2011)	(2012)	(2013)	(2014)	(2015)	
(1)農地が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮	13	県民との協働連携により生物多様性の保全活動を実施している組織数	2組織	2	2	2	2	2	A
(2)災害に強く安全で快適な生活環境の確保	14	排水機場の整備(5年間で9か所)などにより洪水や地震被害のリスクから守られる住宅戸数	22,840戸	1,588	4,014	19,090	20,214	22,840	A
(3)環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化	15	農業分野におけるCO2排出量の削減	5年間で1,300トンを削減	0	72.9	85.4	514.4	-	C

A: 目標の達成率100%以上
 B: 目標の達成率80%以上100%未満
 C: 目標の達成率80%未満

Ⅶ 食と緑の基本計画2015 海部地域推進プランの概要

1. 海部地域の主な課題等

①農業従事者の高齢化や後継者不足 ②輸入農産物の増加 ③国内の産地間競争の激化 ④安全・安心な農産物の供給 ⑤老朽化した農業用排水施設の整備

⑥農林水産業に直接ふられる機会の減少 ⑦海部地域の特産物の利用拡大につながる取組強化

⑧老朽化した排水施設の整備 ⑨農村の生態系や多面的機能の保全管理 ⑩地球温暖化の防止

3つの視点 ⇒ 1《生産》・2《消費》・3《生活環境》

2. 「食と緑の基本計画2015」における施策の柱

1 安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保

2 県産農林水産物の適切な消費と利用の促進

3 自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保

3. 海部地域推進プランの施策と主な重点的取り組み及び施策目標

(1) 生産者と消費者の思いを伝える農林水産物の推進

●他産業との連携により、農林水産物の新たな生産・加工技術や流通・販売方法の開発・普及を推進し、多様化する消費者等のニーズに応えます。

★目標 ①「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」のモデル事例の育成 ⇒ 5年間で5モデル(1+α)を育成



(2) 多様な担い手の育成・確保

●新品目・新品種、低コスト、増収、省力化・軽労化などの革新技術の導入により、意欲ある基幹経営体の育成を図ります。

★目標 ②基幹経営体の育成 ⇒ 158経営体→170経営体
③新規農業就業者の確保 ⇒ 10人/年

(3) 農業生産基盤の整備と優良農地の保全

●老朽化や地盤沈下により機能低下した農業用排水施設の更新工事などを行います。

★目標 ④生産性維持のための農業水利施設の更新 ⇒ 1,090ha
⑤自然災害に強い農地の整備 ⇒ 2,680ha

(4) 食品の安全・安心の確保

●生産・出荷組織や法人等の大規模農家などを対象に、生産工程ごとの管理を適切に行うGAP手法(農業生産工程管理手法)の導入を推進し、農産物の安全性を確保するとともに、農業生産に伴う環境負荷の軽減を図ります。

★目標 ⑥農産物環境安全推進マニュアルを始めとしたGAP手法導入組織・法人等数 ⇒ 7→12
⑦畜産農家(牛・豚・鶏)の飼養衛生管理状況の立入検査計画に対する実施率 ⇒ 100%の達成
⑧食品表示法遵守状況調査の実施 ⇒ 60か所/年

(5) 食と農林水産業に対する県民の理解と活動の促進

●市町村や農協、海部苗木花卉生産組合連合会等と連携したイベントの開催や「花育」の実施により、花や緑が身近にある生活の実現をめざします。

★目標 ⑨農林漁業体験に取り組み小学校の割合 ⇒ 53.1%→76.5%
⑩花と緑の取組組織の育成 ⇒ 5組織→7組織

(6) 県産農林水産物の消費と利用の促進

●地元や県内でとれた農林水産物を活用する「愛知を食べる学校給食の日」の取組を、食育月間である6月を含めて年3回、推進月間として設け、小中学校の学校給食において、地産地消を進めます。

★目標 ⑪学校給食において地域の産物を活用する割合 ⇒ 32.0%
⑫農工商連携等、多様な取組による県産農林水産物を使った新商品開発数 ⇒ 2品目



(7) 農地が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮

●農地・水・環境保全向上対策の農村環境共同活動において、生態系保全を組織の活動として取り組んでいきます。

★目標 ⑬県民との協働連携により生物多様性の保全活動を実施している組織数 ⇒ 2組織

(8) 災害に強い安全で快適な生活環境の確保

●たん水防除事業などにより、老朽化した排水機場の更新、機能低下した排水路の改修及び海岸堤防の耐震補強を計画的に進めていきます。

★目標 ⑭排水機場の整備(5年間で9か所)などにより洪水や地震被害のリスクから守られる住宅戸数 ⇒ 22,840戸



(9) 環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化

●LEDを始め、省エネルギー技術等の活用により、CO2をはじめとする温室効果ガスの排出量の削減を推進します。

★目標 ⑮農業分野におけるCO2排出量の削減 ⇒ 5年間で1,300トンを削減



2015年度

「食と緑が支える豊かな暮らし」の実現





- ① 県内の消費者と生産者が
今まで以上にいい友関係になる
．．．
- ② Eat more Aichi products
(イート モア アイチ プロダクツ)
//
もっと愛知県産品を食べよう
(利用しよう)

食と緑の海部地域レポート'16 (2015版)
平成28年7月

発行 愛知県海部農林水産事務所農政課
〒496-8532 津島市西柳原町1丁目14番地
電話 0567-24-2111 (代) 内線354
電子メール ama-nourin@pref.aichi.lg.jp